

神にとりなしてくださる方

ヨブ記 15-17 章

はじめに

一昨年から少しずつ旧約聖書の「ヨブ記」を学んでいます。今日は、15-17章に書かれている内容から学びたいと思います。

1. ヨブの試練と信仰

ヨブは、誠実な心を持ち、神様を愛し悪から遠ざかっている人でした。神様は、そんなヨブを祝福して、多くの財産と多くの子どもを与えられました。

しかしそんなヨブに、サタンが目を留めて、神様にこう言います。「ヨブは、あなたに祝福されて、多くの財産と多くの子どもが与えられているから、あなたを愛しているのです。もし財産と子どもを失えば、あなたへの信仰を捨てるに決まっています」。

そこで神様はサタンに、ヨブの財産と子どもを奪うことを許可しました。するとヨブは、犯罪や自然災害に巻き込まれて、一日のうちにすべての財産と子どもたちを失ってしまうのです。

しかしヨブは、そのような試練の中でも、決して神様への信仰を失いませんでした。彼は、神様を礼拝してこのように言います。「**私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな**」(ヨブ記 1:21)。

するとサタンはもう一度、神様にこう言います。「ヨブは、財産と子どもを奪われても、健康が与えられているから、あなたを愛しているのです。もし健康を失えば、きっとあなたへの信仰を捨てるに決まっています」。

そこで神様はサタンに、ヨブから健康を奪うことを許可します。するとヨブは、足の裏から頭のてっぺんまで、悪性の腫物で侵されるのです。夜眠れないほどの痛みがあり、やせ細っていきます。内臓も侵され、それが原因で体から悪臭が出るようになりました。その結果、人々からも避けられ、ゴミのように扱われます。そして妻からも、「**神を呪って死になさい**」(ヨブ記 2:9)と見捨てられ、妻は神様への信仰を捨てていきます。

しかしヨブは、そのような試練が続く中でも、神様への信仰を失いませんでした。彼は、妻に向かってこのように言います。「**あなたは、どこかの愚かな女が言うようなことを言っている。私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわざ受けるべきではないか**」(ヨブ記 2:10)。

2. 三人の友人

ヨブには、三人の友人がいました。テマン人エリファズ、シュアハ人ビルダデ、ナアマ人ツォファルの三人です。彼らは、ヨブが激しい試練の中で苦しんでいると聞いて、ヨブ

を慰めに駆けつけます。彼らは最初、ただヨブのために涙を流し、七日間一言も語らずに、ヨブのそばに寄り添い続けたのです。

しかし三人の友人は、ヨブが自分の心の中にある苦しみを語り始めた時から、態度が変わっていきます。ヨブは死を願うほど苦しんでいました。神様がなぜ自分をこのような試練に遭わせるのか、その理由が分からずに苦しんでいたのです。

ヨブ記は全部で 43 章までありますが、3-31 章までは、ヨブと三人の友人との討論が書かれています。その討論は、ヨブの試練の原因は何かという問題を巡っての討論です。

三人の友人は、ヨブの試練の原因を「因果応報」の原理で解釈して、ヨブを教導こうとします。「因果応報」とは、人は必ず自分の行いによって報いを受けるというものです。善いことをした場合は褒美を受け、悪いことをした場合は罰を受けるというものです。

三人の友人は、ヨブの試練の原因は、ヨブの罪にあると考えます。そしてヨブがもし罪を認めて悔い改めるなら、試練は終わり、神様の祝福を取り戻せるはずだとヨブを教導こうとするのです。

3. テマン人エリファズの第二の言葉

4-7 章には、テマン人エリファズとヨブの討論が書かれています。15-17 章には再びエリファズとヨブの討論が書かれています。

15：4 でエリファズは、ヨブにこう言います。「**あなたは敬虔を不要と見なし、神の御前で祈るのをおろそかにしている**」。エリファズは、ヨブの信仰に問題があると考えます。ヨブが神様を恐れて敬虔に歩むこと、また祈ることを疎かにしていると言うのです。

また 15：11 では、「**神の慰めは、あなたに不十分なのか。あなたに優しく語られたことばは**」とも言っています。エリファズは、ヨブを慰めているつもりでした。ヨブの試練の原因は、ヨブの罪や信仰に問題があるからであって、それを認めて悔い改めれば、試練は終わり、神様の祝福を取り戻せるはずだ、そのようにヨブを説得することこそがヨブへの優しさであり、慰めだと信じて疑わなかったのです。そして神様もそう願っていると信じていたのです。

エリファズはやはり「因果応報」の原理でヨブの試練を解釈しています。そして試練を経験しているヨブは、何か罪を犯した信仰に問題がある人で、試練を経験していない自分は、特に罪を犯していない信仰に問題のない人だと考えます。そしてヨブを自分よりも劣っている人としてあわれみ、自分よりも下に見ます。そのため自然と、ヨブに語る慰めの言葉もどこか上から目線になってしまっていたのです。

エリファズにとっては、三人の友人たちがどんなに説得しても自分の罪を認めて悔い改めようとしないヨブが、不敬虔で、高慢で、滅びゆく人にしか見えなかったのです。

3. エリファズに対するヨブの言葉

そのようなエリファズに対して、ヨブは 16：2 でこう言います。「**そのようなことは、私**

は何度も聞いた。あなたがたはみな、人をみじめにする慰め手だ」。ヨブはエリファズに対し、あなたは「人をみじめにする慰め手だ」と言うのです。エリファズは、「因果応報」の原理に従って、ヨブを苦しみから救おうとしました。もしあなたが罪を認めて悔い改めるなら、苦しみから救われる、だから「悔い改めろ、悔い改めろ」と責め立てたのです。しかしヨブにとってエリファズの言葉は、自分をみじめにする言葉でしかなかったのです。ヨブにとってエリファズは、慰めどころか苦しみでしかなかったのです。

ヨブの試練の原因は、決してヨブの罪ではありませんでした。決してヨブが罪を犯したから神様の裁きとして試練を経験したわけではありませんでした。それは、ヨブの信仰を試すためのものでした。ヨブはすべてのものを失っても、神様を愛し続けるか、信仰を捨てないかを試すためのものでした。つまりヨブの信仰が御利益信仰でないかどうかを試すためのものでした。その意味で、エリファズの言葉はどれもの外れでした。エリファズは、「因果応報」の原理でヨブの試練を解釈し、ヨブを罪を犯した信仰に問題のある人と見て、ヨブに「悔い改めろ、悔い改めろ」と責め立てたのです。しかしそれは、ヨブを慰めるところか、ヨブをみじめにし、さらに苦しめるものでしかなかったのです。

ヨブは、神様がなぜ自分にこのような試練を与えるのか理解できません。ヨブは決して自分には全く罪がないとか、自分は完璧な人間だと思っていたわけではありません。神様は恵みによって自分を愛し、祝福してくださっていたと信じていたのです。しかしその愛と恵みに富んでいる神様が突然、自分に試練を与えられるその理由が分からなかったのです。神様は沈黙を守ったままでした。まるで神様が突然、自分の敵になってしまったように思えました。あんなに自分を愛し祝福してくださった神様が、なぜ突然自分から離れ、敵のようになってしまったのか、その理由が分からず苦しんだのです。ヨブは、「神様、なぜですか」と嘆き悲しみ、叫ぶほかなかったのです。

しかしヨブは、16：17でこう言います。「**私の手には暴虐がなく、私の祈りはきよいのだが**」。ヨブは決して信仰を失いませんでした。神様に祈ることを止めませんでした。そしてついに、自分に代わって神様にとりなしてくださる方を求めるようになったのです。16：19-21には、こうあります。「**今でも、天には私の証人がおられます。私の保証人が、高い所に。私の友は私を嘲る者たち。しかし、私の目は神に向かって涙を流します。その方が、人のために、神にとりなして下さいますように。人の子がその友のためにするように**」。

ヨブの三人の友だちは、ヨブのために神様にとりなしてくれませんでした。ヨブのために、神様に訴えてくれませんでした。ヨブの友だちは、ヨブの罪を指摘し、ヨブに「悔い改めろ、悔い改めろ」と責め立てるだけでした。そこでヨブは、自分に代わって神様にとりなし、神様に訴えてくれる「天の証人」「天の保証人」を求めたのです。神様と自分の間をとりもってくれる仲介者、仲保者を求めたのです。

おわりに

私たちには、神様と私たちの間をとりもってくれる仲介者、仲保者がいます。それは、

私たちの罪のために十字架で贖いをなし、復活され、今は天におられて私たちのために絶えず神様にとりなしてくださるイエス様です。このイエス様こそ、ヨブが求めた「天の証人」「天の保証人」ではないでしょうか。

私たちの人生には、ヨブのように突然試練が襲いかかります。私たちにはなぜそのような痛みや悲しみに遭うのか、分かりません。試練の只中にある時、神様は多くの場合、沈黙しておられます。それゆえ私たちの信仰は、揺らいでしまいます。まるで神様が自分の敵になってしまったかのように、神様に捨てられてしまったかのように思えることもあります。神様は自分に怒っているのではないか、神様の愛を疑うこともあります。

その時に私たちの頭をよぎるのが、ヨブの三人の友人たちのように「因果応報」の原理です。私たちが何か悪いことをしたからこの痛みがあるのか、何か罪を犯したからこの痛みがあるのかと考えます。聖書は、「因果応報」の原理をすべて否定しているわけではありません。神様は、罪に対する裁きとして、人間に痛みや悲しみを与えることもありますし、私たちを懲らしめるために、私たちに試練を与えることもあります。しかし聖書は、私たちの人生に起こる試練、痛みや悲しみの原因をすべて「因果応報」の原理によって説明用とするのは危険だと教えています。特に、この「ヨブ記」はそのことを教えています。私たちの人生に起こる試練、痛みや悲しみの原因は、「因果応報」の原理ですべて説明できるものではありません。そこには、神様の複雑で深い御計画があり、私たちには到底測り知ることのできない意味があるのです。

私たちが試練を経験する時に大切なことは、神様の愛を疑わないことです。神様の愛を信じ続けることです。私たちの罪は、すべてイエス様によって贖われ、私たちは神様に義と認められ、すべての罪が赦され、神様の子どもとして、神様の愛の中に生かされています。ヨブが神様の前にとりなしてくださる方を求めたように、私たちには神様の前にとりなしてくださるイエス様がいます。Ⅰヨハネ2：1-2にはこうあります。「もしだれかが罪を犯したなら、私たちには御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのさげ物です」。このイエス様のゆえに、神様は私たちを罪に従って裁くことはありません。もちろん神様は私たちを、御自身の子どものとして懲らしめることはあります。時に試練を与えて、一時的に痛みや悲しみに遭わせることもあります。しかしそれは、父としての神様の愛から出ている訓練であり、私たちを成長させるためのものです。

私たちは、たとえどんな試練や痛み、悲しみを体験したとしても、決して神様の愛を疑ってはいけません。イエス様を信じる私たちは、決して神様の愛から引き離されることはないからです。「だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか」「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」(ローマ 8:35、38-39)。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちの人生には様々なことが起こります。予想もできないことが起こります。しかし神様はそれらをすべてご存じであり、それらはすべて神様の御手の中にあります。私たちには、その出来事の意味を知ることはできませんが、それがすべて神様の愛から出ていることを信じさせてください。時にはあなたの愛から出ている懲らしめであるかもしれません。その時にはへりくだって自分の罪を認め、悔い改めることができますように。

しかし「因果応報」の原理では収まりきらないのが神様の御計画です。どうかあなたの愛を決して見失うことなく、試練に耐え、あなたにある信仰と希望を持ち続けることができますように。

この祈りを、私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。